令和5年11月17日 人吉新聞

相良中学校

「朝の読書大賞」受賞

郡市初 20分読書など活動評価

学校全体で毎朝20分の読書を継続して行っている相良中学校（吉田憲一校長）は、第16回高橋松之助記念「朝の読書大賞」を受賞した。県内で2校目、郡市では初めて。

公益財団法人高橋松之助顕彰財団が主催する全国規模の同賞は、読書推進に貢献し、顕著な業績を上げた学校を表彰。文字・活字文化振興に努めた地方自治体、団体、個人に贈られる「文字・活字文化推進大賞」もある。

相良中は、平成11年から月に1週間の期間を設けて毎朝10分間の「朝の読書」を開始し、同26年からは毎朝20分に変更。司書の鵜口章子さん（62）と図書委員7人が協力して読書に親しむ環境づくりに努めており、「先生たちによるおすすめ本の紹介」「相良中生にすすめたい100冊の本」の冊子作成を10年以上継続している。

その他、国語の時間を利用してテーマに沿った本の紹介、学校放送での読み聞かせ、図書に関するクイズ出題など精力的に活動。生徒一人当たりの年間平均貸し出し数は70冊を超え、保育園での読み聞かせなど地域に根付いた読書推進を展開している。

吉田校長（55）は「読書を通じた他校との交流ができればと思い応募した。昨年度は優秀賞だったので大賞はうれしい」と言い、「毎朝20分の読書に取り組んでいる学校は全国でも珍しく、休み時間に読む生徒も多い。楽しく本を読むことができる環境ができており、ジャンルを問わずさまざまな本にふれている」と話す。

3年生の松田悠吾図書委員長は「国語の音読がスムーズになったり、文章の意味が理解できるようになったりと勉強に役立っている。普段は手にしない本を読むことで興味が湧く。自分が発案したクイズの反応も良くてうれしい」。

同じく3年生の永井斗眞副委員長は「地理関係の本を読んでおり、社会の授業で役に立つなど本から学ぶことは多い。図書委員の活動を通じて誰がどんな本が好きなのかを知ることができてよかった」と話していた。

「朝の読書大賞」を受賞した相良中